

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

発行：小川正賢（神戸大学発達科学部内）

事務局：〒153-8681 東京都目黒区下目黒6-5-22

国立教育政策研究所内

e-mail: jimukyoku@jsse.jp

URL: <http://www.jsse.jp>

2007.4.15

NO.181

科学教育研究レター



目次

- | | |
|--|---|
| ■ 理事会だより
第225回理事会報告……………2
事務局移転問題に関する検討の
進捗状況について……………3 | ■ 研究会だより
平成18年度
第6回研究会開催のお知らせ……………9
平成18年度
第5回研究会開催報告……………10
研究会の改組について……………11 |
| ■ 学会賞
2007年度学会賞候補者の募集……………4 | ■ 編集委員会だより……………12 |
| ■ 年会
第31回年会案内（第4次）……………5
エクスカージョンのご案内……………8 | ■ 広報委員会からのお知らせ……………12 |
| ■ 若手の会……………9 | |

日本科学教育学会第 225 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2007 年 3 月 17 日（土）14:00～17:15
会 場 （株）内田洋行新川ビル 9 F AV ルーム
出席者 会長：小川（正）
理事：飯島、磯崎、岩崎、小川（義）、小倉、垣花、加藤、小林、猿田、丹沢、
益子、吉田、吉村
監事：松原
オブザーバー：木村（顧問）、吉川（個人情報保護管理委員長）、池田（年会
実行委員会事務局長代理）

1. 議事要録（案）の承認

○第 224 回理事会議事要録（案）が承認された。

2. 報告事項

1) 庶務・事務局

○国立情報学研究所より、2 月 21 日開催の電子図書館サービス連絡会議の開催案内を受け付けた（1 月 25 日）。

○「科学教育研究」第 30 巻第 3 号を会員に向け、発送した（1 月 31 日）。

○（財）大川情報通信基金から 2007 年度研究助成応募案内を受け付け、学会 HP に掲載した（2 月 8 日）。

○日本学術会議から、アンケート「学協会の機能強化方針検討のための学術団体調査」への協力依頼を受け付け（2 月 13 日）、回答を送付した（2 月 28 日）。

○早稲田大学教務課より、寺田文行会員（元副会長）の叙勲申請に関わる資料提供の申し出があり（2 月 16 日）、学会の概要および歴代副会長リストを提供した（2 月 20 日）。

○群馬大学総合情報メディアセンター図書館より、研究会研究報告掲載論文の機関リポジトリへの登録についてメールで問い合わせがあった（2 月 19 日）。

○筑波大学より、朝永振一郎博士生誕 100 年記念事業青少年プログラム「科学の芽」賞事業実施報告書を受領した（2 月 26 日）。

○国立科学博物館から学会後援の国際シンポジウム（2 月 23、24 日開催）の事業実施報告書を受領した（3 月 2 日）。

○「科学教育研究」第 30 巻第 4 号、第 5 号を会員に向け、発送した（3 月 5 日）。

○日本学術振興会から平成 20 年度特別研究員および特別研究員-RPD- の募集案内を受け付け（3 月 5 日）、学会 HP に掲載した（3 月 8 日）。

○日本学術会議から 3 月 16 日に開催されるシンポジウム「これからの日本の学協会のありかたー学協会を巡る変化とその対応」について案内があった（3 月 6 日）。

○「科学教育研究」第 31 巻第 1 号を会員に向け、発送した（3 月 14 日）。

2) 経理・会員

○会員名簿については、個人情報保護に関して挿入する文章が完成し、印刷・配布することとなった。

○会計中間決算について、報告があった。

3) 機関誌編集

○掲載決定論文

・第 31 巻第 1 号（和文号）3 月 10 日発行：20 篇（研究論文 1 篇、招待論文 2 篇、プラザ 17 篇）

・第 31 巻第 2 号（和文号）6 月 10 日発行：6 篇（研究論文 2 篇、実践論文 3 篇、資料 1 篇）

○特集号の部会を編成することについて報告があった。

○事務局分散化に伴い、審査手続きの変更について検討中であることが報告された。

○第 30 巻第 4 号（英文号）の図表欠落への対応について報告があり、第 31 巻第 2 号及び次に刊行する英文号に訂正を掲載することとした。

4) 国際

○年会に向けて企画を検討中であることが報告された。

5) 調査研究

○年会での課題研究の企画を検討中であることが報告された。

6) 広報

○レター 180 号は 2 月 15 日発行。Web 版は同日掲載。

○レター 181 号は 4 月 15 日発行予定。原稿締切は 3 月 30 日。

○事務局において「規定」および「規程」の統一を図ることが確認された。

○レターの Web 版における ISSN 番号を申請し、学会の新 HP にアップロードすることとした。

○レターの紙媒体を廃止する方向で、次回以降の理事会で検討することとなった。

7) 年会企画

○年会企画委員会から報告があった。

○第 31 回年会開催校から準備の進捗状況について報告があった。

8) 社会貢献

○本年度「U-18 科学研究コンクール」の開催に向けた活動を 1 月 22 日に開始した旨、報告があった。

9) その他

○木村顧問から、特定領域研究『新世紀型理数科系教育の展開研究』の終了報告があり、学会として今後どのように対応するかについて意見を聴取した。

○事務局から、学会HP上の会員専用HPへのアクセスの不具合があったが、現在は復旧していることについて報告があった。

3. 協議事項

1) 入退会希望者等について

○入会希望者 14 名、退会希望者 9 名が承認された。

[入会希望者]

非 公 開

[退会希望者]

非 公 開

*現在会員数 1,225 名 年度末退会者 18 名を含む。

(正会員 1,158 名、学生会員 52 名、公共会員 2 名、賛助会員 3 名、名誉会員 10 名)

2) 群馬大学総合情報メディアセンター図書館より依頼のあった「研究会報告」論文の公開請求への対応について検討した結果、著作権に関する明確な指針を検討中である旨、回答することとなった。

3) 研究会の改組と支部との統合について提案があり、研究会の開催回数等を修正し、平成 20 年度以降の正式運用に向けて準備を進め、平成 19 年度から試行的に実施することとなった。

4) 「U-18 科学研究コンクール」実行委員会の設置と委員が提案され、承認された。また、本年度も SSISS との共同主催とすることが承認された。

5) 日本郵政公社から「学会」としての個人情報漏洩したという連絡を受けたことが報告された。

次回理事会予定

第 226 回：2007 年 5 月 19 日（土）14 時から 17 時（株）内田洋行新川ビル 9 F AV ルーム

事務局移転問題に関する検討の進捗状況について

会長 小川正賢

すでにご案内のとおり、長年にわたってご好意により学会事務局を置かせていただいております。国立教育政策研究所が平成 20 年 1 月に文部科学省ビルに移転するのに伴い、学会事務局を移転することになっております。この間、学会理事会では平成 17 年 12 月に事務局移転検討ワーキンググループを立ち上げ、検討を重ねてきております。当初は事務局の分散化を目指して検討を続け、同時にその試行をはじめてまいりました。しかしながら、試行を続けるなかで、事務局の主要業務である経理・会員、学会誌編集、庶務の各会務は、相互に密接に連絡を取りあわなければ機能しない局面が多々存在することがしだいに明らかとなり、ワーキンググループでは、各会務を別の場所で独立して行うことは事実上不可能であるという判断に立ち至りつつあるという報告を受けております。

そこで、国立教育政策研究所の移転を目前にして事務局業務移転を早急に進めなければならない切迫した状況下で、安定した会務を遂行するためには、近年、他のいくつかの学会が行っているように、上記の会務を一括して、信頼のおける外部業者に委託することも選択肢に含め、緊急に検討して結論を出す必要があることを会員の皆様にご理解いただきたく存じます。ワーキ

ンググループの結論が出しだい、理事会で協議し理事会としての結論を得て、総会に事務局移転に関する提案をすることになるかと思えます。

科研費の刊行助成制度の改訂の影響で学会誌刊行補助（年間150万円）が受けられなくなり、緊縮財政を余儀なくされるおり、事務局業務の外部委託は、従来の事務局アルバイト謝金分を越える経費増の可能性もあり、ぎりぎりの財政状況にならざるを得ませんが、それだけ、従来の会務運営に国立教育政策研究所の目に見えないご協力に頼った会務運営であったことを改めて痛感させられております。

いずれにしましても、理事会で知恵を絞りながら、次年度の予算計画を考え、この事務局移転問題の早期決着をめざしたいと思えますので、今後とも、会員の皆様のご理解とご協力、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

学会賞

2007年度学会賞候補者の募集

本学会の学会賞：学会賞（大塚賞）、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞及び教育実践賞を下記により募集します。すべての賞は会員からの推薦に基づいて審査されますので、ご活躍の候補者について、多数の推薦をお願い致します。

1. 推薦期限

2007年（平成19年）5月17日（木）（必着）

2. 受賞資格

- (1) 学会賞（大塚賞）：科学教育に対する優れた業績や功績によって本学会の発展に寄与した本学会会員。
- (2) 学術賞：科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ、本学会の発展に寄与した本学会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去10年以内のものとする。
- (3) 国際貢献賞：科学教育の国際貢献・国際協力研究において特に顕著な業績や功績のあった本学会会員。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去5年以内のものとする。
- (4) 論文賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌に発表した本学会会員。対象となる論文は、賞の応募締切日から過去3年以内に発表されたものとする。
- (5) 奨励賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌、年会論文集、研究会「研究報告」に発表した本学会会員で、受理の時点で、原則として満38歳未満の者。対象となる論文等は、賞の応募締切日から過去2年以内に発表されたものとする。
- (6) 教育実践賞：科学教育の実践研究において特に顕著な業績や功績のあった本学会会員。また、該当する本学会会員との連携により、科学教育に従事し、教育上顕著な業績や功績のあったグループ。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去3年以内のものとする。

3. 受賞件数

大塚賞、学術賞及び国際貢献賞の件数はとくに定めない。論文賞、奨励賞及び教育実践賞の件数は2件以内である。

4. 選考

本学会の学会賞選考委員会が候補者を選定し、理事会が決定する。

5. 賞

- (1) 本賞は賞状とする。
- (2) 賞の贈呈は、2007年度定時総会において行う。

6. 候補者の推薦

- (1) 候補者を推薦する者は、本学会の会員とする。大塚賞は他薦のみによるが、その他の賞は自薦も可とする。
- (2) 推薦者は、推薦の様式を学会事務局または学会ホームページから入手の上、その様式にしたがって作成した推薦書を事務局に提出する。
- (3) 奨励賞の推薦に当たり、論文などの著者が複数の場合は、受賞候補者は主著者となるため、他の全著者の承認が必要となる。この承認は、推薦者において予め得ておくものとする。

7. その他

- (1) 論文賞対象論文は、「科学教育研究」Vol.28, No.2以降に掲載の論文です。また、奨励賞の対象は、「科学教育研究」Vol.29, No.2以降、研究会「研究報告」Vol.20, No.1以降及び第29回・第30回年会論文集に掲載の論文が該当します。
- (2) 推薦用紙は学会ホームページに用意しているものを利用して下さい。
- (3) 詳細は、学会事務局までお問い合わせ下さい。

1. 年会テーマ：転換期の科学教育
年会HP <http://certcms.shinshu-u.ac.jp/jsseam/> (近日公開予定)
2. 期 日：2007年8月17日(金)～19日(日) ※19・20日はエクスカージョンあり。
3. 会 場：北海道大学 高等教育機能開発総合センター、及び情報教育館4F (若手の会：予定)
(〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目)
アクセスと周辺地図：
<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/map/mapindx1.htm>
<http://www.welcome.city.sapporo.jp/access/pdf/2005/01hokudai.pdf>
4. 主 催：日本科学教育学会
5. 後 援：文部科学省、北海道教育委員会、読売新聞北海道支社、札幌市教育委員会、北海道大学
6. 共 催：JR北海道、北海道ガス、北海道大学高等教育機能開発総合センター、北海道新聞社
7. 年会実行委員会：
[委員長] 山口佳三 (北海道大学大学院理学研究院長)
[事務局] 鈴木 誠 (北海道大学) 事務局長
池田文人・西森敏之・細川敏之 (北海道大学)、鶴岡森昭 (北海道清田高等学校)
[実行委員] 古屋光一・大鹿聖公 (北海道教育大学旭川校)、能條 歩 (北海道教育大岩見沢校)、
高橋伸充 (札幌市立平岸中学校)、CoSTEP (杉山滋郎、松王政浩、天野哲也、難波美帆、
石村源生)、北海道大学院生 (齋藤・吉見・山谷・野崎)
連絡先：〒060-0817 北海道札幌市北区北17条西8丁目
北海道大学 高等教育機能開発総合センター 鈴木 誠
e-mail: jsse31@yahoogroups.jp TEL: (011)706-7513
8. 発表申込期限と申込先：
 - ① 自主企画課題研究：受付終了
 - ② ワークショップ：受付終了
 - ③ 一般研究発表：平成19年5月28日(月)～6月16日(土) > 年会 Web (後日お知らせします)
 - ④ インタラクティブセッション：平成19年5月31日(木)まで > jsse-interactive@freeml.com
9. 発表原稿の提出期限：平成19年6月16日(土) ★例年より1週間早くなりますのでご注意ください。
10. 発表原稿の提出先：
 - ① 学会企画シンポジウム：年会企画委員長 (佐伯昭彦) > saeki@neptune.kanazawa-it.ac.jp
 - ② 実行委員会企画シンポジウム：実行委員会事務局長 (鈴木 誠) > makosuzu@high.hokudai.ac.jp
 - ③ CoSTEP 企画シンポジウム：実行委員会事務局長 (鈴木 誠) > makosuzu@high.hokudai.ac.jp
 - ④ 学会企画課題研究発表：各オーガナイザー
 - ⑤ 自主企画課題研究発表：各オーガナイザー
 - ⑥ ワークショップ：取りまとめ担当者 (角、竹中、中原)
 - ⑦ 一般研究発表：年会 Web
 - ⑧ インタラクティブセッション：取りまとめ担当者 (舟生、久保田、森本)
11. 参加申込：
 - ① 参加のWeb 申込期間：平成19年5月28日(月)～8月5日(日)
 - ② 参加費：一般会員：7,000円、学生会員：5,000円 (年会論文集代を含む) の予定。懇親会
は一般・学生会員とも5,500円の予定です。懇親会の参加は事前登録となります。参加希望
の方は、参加費と併せて7月13日(金)までに振替口座に振り込んでください。懇親会の
内容については同封の資料をご参照ください。
★ 年会費の早割り期限 (500円引き)：7月13日(金)
 - ③ 振込先：郵便振替口座番号：02750-3-44141 名義：JSSE31実行委員会
口座番号入りの郵便振替用紙は、次のレターに同封いたします。
12. 日程 (予定)
<次頁に掲載>
13. 内 容：次の内容を予定しています。
 - (1) 学会企画シンポジウム
題目：「科学教育の転換点」
趣旨：将来の科学教育の新たな転換の呼び水となるような話題について取り上げ、それらが
発展していくとどう科学教育を変えていく可能性があるのかという観点から話題を提供して
もらい議論する。
 - ① 国際社会が求める科学リテラシー (発表者：北原和夫)
 - ② 科学と社会をつなぐ広場をつくる (発表者：美馬のゆり)

	8月17日(金)		8月18日(土)		8月19日(日)		8月20日(月)	
8:30			受付		受付		エキスカ ション	
9:00	受付		自主課題 研究発表 (2時間)	一般 研究発表 (2時間)	学会企画 課題研究 (2時間)	ワー ク ショ ップ (2時間)		U-18準備
10:00	一般 研究発表 (2時間)	国際交流 企画 (2時間)	休憩		休憩			U-18コンテスト (2時間)
11:00			若手の会 [バイキング :13時まで]	インタラ ク ティ ブ (2時間)	科学教育研究セミナー (小川義和先生:45分)			
12:00	昼食 各委員会 (1時間)		昼食 各委員会 (1時間)		昼食 各委員会 (1時間)	生徒片づけ 昼食 科学教室準備 (1時間)		U-18審査 (2時間) [昼食]
13:00	学会企画 課題研究 (2時間)	ワー ク ショ ップ (2時間)	CoSTEP企画 (2時間)		科学教育研究セミナー (高垣マユミ先生:45分)	子ども のため の 科学教室 (2時間)		U-18表彰式 準備 (1時間)
14:00			休憩		自主課題 研究発表 (2時間)			
15:00	休憩		休憩		U-18表彰式 (1時間)			
16:00	実行委員会企画 シンポジウム (2時間)		総会/表彰 (45分)		片づけ・撤収			
17:00	休憩		学会企画 シンポジウム (2時間)					
18:00	理事会 (1時間)	サイエンス カフェ (1時間45分)	移動 (30分)					
19:00	合同会議 (1時間)		懇親会 [札幌ビール園]					
3日間を通して終日、企業展示								

- ③ 持続可能な社会のための教育(ESD)に対する科学教育の貢献(発表者:阿部 治)
- ④ 日本の科学館における展示の今昔(発表者:藤原 清)
- ⑤ 総合的な学習の時間における新しい試み(発表者:牧野治敏・東 徹哉)
- (2) 年会実行委員会企画シンポジウム(北海道大学高等教育機能開発総合センター主催:一般公開)
- 題目:「次期学習指導要領への期待と科学教育の新展開」
- 趣旨:2007年は、日本のこれからの科学教育を考える上で大きな転換期となるかもしれない。なぜなら、秋には次期学習指導要領の骨格が明らかになり、年末にはPISA2006(科学的リテラシー)の結果が世界同時公開されるからである。教育先進国と呼ばれる国々では、明確な理念と戦略を持って教育を展開している。一方日本は、自然との直接体験の不足や科学のブラックボックス化の進行など、子どもたちを取り巻く学びの環境は依然厳しい状況にある。今我々は、彼らにどのような科学教育を具体的に提案し、準備しなければならないのだろうか。本シンポジウムは、まず現行の学習指導要領と次期学習指導要領の骨格を元に、多様な角度から期待を集約する。そして、それらを分析しながら、21世紀に生きる子どもたちに求める資質とそれを伸ばす学習内容や学習指導まで踏み込みながら、これからの科学教育の方向性を提示することをねらいとする。
- 司会:小川正賢(会長) 予定
- シンポジスト:田代直幸(文部科学省教科調査官)、玉利和弘(北海道帯広柏葉高等学校長)、

北村行孝(読売新聞社・前論説委員・現東京本社科学部長)、高橋伸充(札幌市立平岸中学校教諭)

(3) **CoSTEP 企画シンポジウム** (北海道大学サイエンスコミュニケーター養成ユニット主催)
題目:「理系キャリアデザインと科学技術コミュニケーション」
趣旨: 3月21日に開催された「進路選択応援セミナー」(CoSTEP 主催、河合塾、パイオニア株式会社共催、北大工学部ヒューマンリソースセンター協力)を参考事例とし、理系のキャリアパス形成と、科学コミュニケーションのかかわりを考える。
シンポジスト: 豊田義博(リクルートワークス研究所・主任研究員)、難波美帆(北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット)、梅原麻子(パイオニア株式会社・人事部採用担当マネージャー)、蔭山成利(立命館慶祥高等学校)、谷 正史(金沢工業大学・企画調整部次長)

(4) 学会企画課題研究発表

昨年度の継続を含めた以下のテーマの具体化を進めています。

- ① サイエンス・コミュニケーション活性化のための人材養成の現状と活動展開 (オーガナイザー: 田代英俊)
 - ② 科学・技術科・数学科の統合カリキュラム (オーガナイザー: 丹沢哲郎)
 - ③ 持続可能な社会のための科学教育 (オーガナイザー: 荻原 彰, 加藤 浩)
 - ④ 高校普通科情報開始後の情報リテラシーの現状と課題 (オーガナイザー: 加納寛子)
 - ⑤ これからの理科のあるべき姿 [仮題] (オーガナイザー: 廣井 禎)
- (5) **自主企画課題研究発表** (審査中)

以下に公募された企画を示します。これらの企画の受理については、年会企画委員会で審査中です。

- ① 教育現場における科学教育に見られる学び合いの今日的課題・三崎 隆(北海道教育大学 釧路校)
- ② (仮) 3次元動的幾何ソフトで学校数学の学びを啓発するために・宮崎樹夫(信州大学教育学部)
- ③ 学力向上のために学校現場でできることを探る : 算数科を切り口とした 指導法の改善と指導力の向上・片貝卓也(鶴居小学校)、鈴木 誠(北海道大学)
- ④ 次期学習指導要領における数学的モデリングの位置付け・佐伯昭彦(金沢高専)
- ⑤ 科学教育と自然体験学習 (3)・降旗信一((社)日本ネイチャーゲーム協会)、宮野純次(京都女子大学)
- ⑥ 新しい時代の統計教育の方向性を探る・青山和裕(筑波大学人間総合科学研究科)
- ⑦ インタラクティブ学習環境: 科学の学びを支援する新しい学習環境・望月俊男(東京大学)
- ⑧ 情報社会における科学教育をとりまく諸問題に関する検討・加納寛子(山形大学)
- ⑨ 海外における理科教育におけるパフォーマンス評価の実施状況とその課題・古屋光一(北海道教育大学旭川校)

(6) ワークショップ

新しい学習指導法, 実験方法, 研究法などを体験的に学べる企画です。

(7) 一般研究発表

発表時間は1件につき20分(発表15分・質疑5分)を予定しております。筆頭発表者は会員でなければなりません。筆頭発表者での発表件数は一件です。なお、従来のポスターセッションは、下記のインタラクティブセッションに統合されました。

(8) インタラクティブセッション (公募中)

本セッションは、昨年までの「ポスターセッション」と「展示セッション」を統合した新しいセッションです。このセッションでは、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です。例えば、(1) アイディアは新しいが検証の途上である研究、(2) 新規性に欠けるが教育実践上有効性が高い研究、など、萌芽的な研究やチャレンジングな研究について語り合う形式が考えられます。また、教育実践の場で直ちに使える有効な実験方法や道具、例えば、(1) 身の回りのものを活用した実験方法、(2) 自作による実験器具、(3) コンピュータに接続する実験器具、(4) コンピュータソフトウエア(シミュレーション、分析、記録など)などについて、実演を通して語り合う形式も考えられます。セッションは2時間程度の時間を準備しますので、十分に時間をかけてインタラクティブに語り合う事ができます。

・企画受付締切: 平成19年5月31日(木)

・筆頭発表資格: 筆頭発表者は会員でなければなりません。筆頭発表者での発表件数は一件です。

・企画応募先: jsse-interactive@freeml.com

仮のものでもかまいませんので、テーマ名、発表者、概要、連絡先を記入して下さい。

(9) 招待講演「科学教育研究セミナー」

特定の分野でアクティブに研究されている先生方をお招きし、会員向けに専門的なお話を聞かせていただく招待講演です。学会論文賞を受賞されました(1)高垣マユミ先生(鎌倉女子大学)、(2)小川義和先生(国立科学博物館)、下條隆嗣先生(東京学芸大学)の2組がご講

演されます。

(10) **若手の会**

「若手の会」の幹事を中心に企画を計画中です。

(11) **U-18 科学研究コンクール**

昨年に引き続き、18歳以下の生徒を対象に科学研究の成果を発表する機会（ポスター発表）を提唱し、優れた着想や取り組みの研究に対して賞を与える「U-18 科学研究コンクール」を実施します。詳細については、学会または年会ホームページで情報を載せていく予定ですのでご確認ください。

(12) **サイエンスカフェ（実行委員会企画）**

8月17日（金）18時～19時45分：タイトル未定

Sapporo55ビル1階インナーガーデン（紀伊國屋書店札幌本店 正面入り口前）

(13) **子どもたちの科学教室（実行委員会企画）**

サイエンス・コミュニケーション活動を積極的に展開する北海道内の企業、およびNPOと協力しながら、社会に開かれた科学教育の一つのあり方を提示します。セッションは二部構成で展開されます。

第一部：子どもたちが民間企業（北ガスや北電など）による実験講座や、中学生や高校生によるサイエンスカフェを自由に体験する。

第二部：第一部で体験したことに基づいて、保護者や教育関係者を中心にシンポジウム形式での討論会を行う。

(14) **その他**

以上の研究発表等の他に、総会、会合や懇親会（札幌ビール園）、理事会や各種委員会等が開催されます。

14. **エクスカージョン**：

8月19日（日）・20日（月）にエクスカージョンがあります。内容及び申込方法に関しては、同封の案内書を参照して下さい。

内容：①旭山動物園のコンセプト―本物を伝えるためのサイエンスコミュニケーター＝飼育展示係―、②北大生によるエコ・ツアー、③火山災害とカルデラ湖

15. **宿泊と航空券の斡旋**：

JR北海道法人旅行コンベンション札幌支店に斡旋をお願いしました。同封の案内書を参照して下さい。夏の北海道はたいへんな混雑が予想されますので、早期の申し込みをお願いいたします。

エクスカージョンのご案内

年会実行委員会

1. テーマ：「旭山動物園のコンセプト―本物を伝えるためのサイエンスコミュニケーター＝飼育展示係―」

日時：平成19年8月20日

内容：旭山動物園はその、自然な生態が見られる行動展示でよく知られています。園内の施設見学、ディスカッションを行います。これらを通してサイエンスコミュニケーターとしての飼育展示係とその仕事の特徴について説明します。それによって、旭山動物園のコンセプトを体験的に理解するプログラムです。一般の来園では体験できない楽しい学びを用意します。

19日：学会終了後、各自旭川市内へ移動しておいて下さい。

20日：8:20 旭山動物園入り口付近集合。

8:30～9:30 園内の施設見学、説明。

9:30～12:00 図書室にて旭山動物園の説明と質疑応答。

☆このあとは、そのまま解散となります。

☆当日札幌からJRを利用して、8:20に旭山動物園前に集まることは難しいです。そのため、前日に旭川市内へ宿泊することがおすすです。その場合開園時間前なので市バスはまだ走っていません。タクシーで市内からの移動になります。

定員：40名（参加者は学会員のみとします。家族やお子様の参加を想定したプログラムではありません。もちろん、ご家族と園内での待ち合わせは可能です。）

参加費：入園料は大人580円です。

☆当日の集合場所等の詳細は後日連絡します。

☆問い合わせ&申し込み：古屋光一（北海道教育大学旭川校）へ電子メール（furuya@asa.hokkyodai.ac.jp）でお願いします。 ※旭山動物園へのお問い合わせはご遠慮下さい。

2. テーマ：「北大生によるエコ・ツアー」

日時：平成19年8月20日10時～12時

内容（予定）：北大のエコロジーに関わる施設や研究を見て回りながら、北大キャンパスの豊かな自然を満喫しましょう！集合場所と時間：北大正門前に9時50分までに集合ください。

定員：50名

参加費：無料

申込方法：池田文人（北海道大学）fumike@high.hokudai.ac.jp宛に、氏名・年齢・住所を記入した電子メールをお送りください。同伴者がいる場合には同伴者ごとに氏名・年齢・住所（申込者と異なる場合）をご記入ください。

申込期日：平成19年7月13日（金）午後5時まで

その他：応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。その場合、抽選結果は平成19年7月20日（金）午後5時までに電子メールで通知させていただきます。

3. テーマ：「火山災害とカルデラ湖」

日時：平成 19 年 8 月 19～20 日

内容：2000 年の有珠山の噴火口付近の見学と洞爺湖でのカヌー体験

19 日：学会終了後（16：00？）に洞爺湖温泉へ移動

20 日：午前 洞爺湖にてカヌー体験、午後 有珠山噴火口付近見学

※人数によっては、班分けして午前と午後での入れ替えとなります。

※札幌からの移動は貸し切りバスになります。

※20 日終了後は千歳空港経由で札幌まで送迎いたします。千歳空港着は 18 時前後、札幌着は 20 時前後となる予定です。

定員：40 名

参加費：カヌー体験料金（4,500 円）と経費負担金（資料代+案内人経費＝1,500 円）がありますので、2 名 1 室利用の場合 1 人 19,000 円（諸税込）、3 名 1 室利用の場合 1 人 15,000 円（諸税込）、4 名 1 室利用の場合 1 人 14,000 円（諸税込）、となる予定です。

※上記の計算は 20～40 名の場合です。人数が 20 名以下の場合、2,000 円程度アップします。

※送迎バス料金が含まれています。

※旅行中の事故については、宿泊先ホテルとカヌー体験ガイド会社の保険による対応となりますが、有珠山見学中の 2～3 時間は対象外となる可能性があります。

※カヌー体験は初心者コースです。多少ぬれてもいい服装と運動靴で参加してください。

緊急時のためにモーターボートを出します。

※有珠山噴火口付近は遊歩道となっています。多少起伏がありますが、登山というほどではありません。動きやすい服装とハイキングに適した靴で参加してください。

※提携業者は以下のとおりです。

宿泊先 ホテルグランドトoya

〒049-5721 北海道洞爺湖町洞爺湖温泉 144 番地 TEL：(0142)75-2288

カヌーガイドینگ 洞爺ガイドセンター

〒049-5802 北海道虻田郡洞爺湖町洞爺町 402 TEL：(0142)82-5002

※申し込み締め切り：およその人数は 2 ヶ月程度前、実際の最終体験締め切りは 1 週間前をお願い致します。

※問い合わせ&申し込みは、能條 歩(北海道教育大学岩見沢校)へ電子メール(nojo@iwa.hokkyodai.ac.jp) をお願い致します。

若手の会

○本年も、年会時に「若手の会」を開催します。現在若手の会幹事の間では、来年度の年会に向けて準備を進めています。年会では、気軽かつ自由な議論を行なうため、「ラウンドテーブル」を用意する予定です。

つきましては、ラウンドテーブルで議論してみたいテーマについて募集しております。例えば、「次期学習指導要領について」、「情報教育について」、「環境学習について」、「サイエンスコミュニケーションについて」等の議論してみたいテーマがあれば幹事まで御連絡ください。

○登録の申込方法:担当の加納寛子会員宛 (kanoh@kdeve.kj.yamagata-u.ac.jp) に、電子メールで「JSSE 若手の会メーリングリスト参加希望」とご連絡ください。

※メーリングリストは、非会員の方でも参加できます。科学教育にご関心のある方がお近くにいらっしゃいましたら、お誘いください。

*第 31 回年会「若手の会」企画担当委員：

加納寛子（山形大学）kanoh@kdeve.kj.yamagata-u.ac.jp

岸本忠之（富山大学）kisimoto@edu.toyama-u.ac.jp

清水欽也（広島大学）kinyas@hiroshima-u.ac.jp

松浦拓也（広島大学）takuyam@hiroshima-u.ac.jp

三宅志穂（高知大学）smiyake@cc.kochi-u.ac.jp

研究会だより

平成 18 年度 第 6 回研究会開催のお知らせ 発表募集と参加へのお誘い
第 1 部会：科学教育戦略研究部会（明日の科学教育を考える）

[テーマ] 明日の科学教育を考える

テーマに関する発表を主としますが、その他科学教育全般に関する研究発表も歓迎いたします。日頃の教育研究や実践の成果や意見・提言をご発表ください。

[日 時] 平成 19 年 6 月 23 日 (土) 10:00 ~ 17:00

[会 場] 愛知教育大学

〒 448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1

[発表申込方法] ①研究会名・開催日 (第 6 回研究会・6 月 23 日)。②氏名・所属 (共同研究者をふくむ。発表者複数の場合、登壇者に○印をつける)。③テーマ発表・一般発表の別。④研究発表題目。⑤発表概要 (200 字程度)。⑥使用機器 (発表用機器は、プロジェクタ、OHP、VTR (VHS)) を準備する予定です。⑦連絡先 (住所・電話・FAX・e-mail 等) を、e-mail あるいは FAX 等で、下記連絡先までお知らせください。折り返し、原稿執筆要項等をお送りします。

[発表申込締切] 平成 19 年 5 月 5 日 (土) 必着

[原稿提出締切] 平成 19 年 5 月 19 日 (土) 必着

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加できます。

[参加費] 『研究会研究報告』誌講読会員は無料、当日参加 (『研究会研究報告』誌付) は 1,000 円 (参加のみ 500 円) です。

[担 当] 飯島康之・山田篤史 (愛知教育大学)

[連絡・問い合わせ先] 〒 448-8542 刈谷市井ヶ谷町広沢 1 愛知教育大学 数学教育講座

TEL&FAX : (0566) 26-2329 (飯島)

e-mail: yijima@auecc.aichi-edu.ac.jp (飯島), yamada@auecc.aichi-edu.ac.jp (山田)

[本研究会用ホームページ] <http://ijjima.auemath.aichi-edu.ac.jp/pw/jsse-2007-06/>

[その他] お昼に東海支部総会を開催いたします。

平成 18 年度 第 5 回研究会開催報告

第 4 部会：科学教育人材養成研究部会 (科学教育人材養成を多角的視点から問う)

標記の研究会 (第 4 部会、科学教育人材養成研究部会担当) は、平成 19 年 2 月 17 日 (土) 10 時 ~ 16 時、鎌倉女子大学を会場として開催された (担当：高垣マユミ・福井智紀・大貫麻美)。天候にも恵まれた当日は、神奈川県内外から多くの参加者が集まり、総数は 43 名となった。研究主題は『科学教育人材養成を多角的視点から問う』で、これに関連する研究発表が 15 件、一般研究発表が 10 件、合計 25 件の発表があった (プログラムは、レター No. 180 に掲載)。研究主題に関連する研究発表は、セッションごとに総合討論をもつ形式で行った。概要は以下の通りである。(以下、敬称略)

セッション 1 の A 会場では、高垣マユミ (鎌倉女子大学) らは概念変化のプロセスを把握する理科授業の分析手法について、鈴木 樹 (鎌倉女子大学) は理科・数学教育における日常生活との関連性に関する考察について、年森敦子 (鎌倉女子大学) は教員養成過程における情報教育の教材について、橋本吉貴 (鎌倉女子大学) らは中学校の図形概念の変化を促す指導法の検討について、発表を行った。セッション 1 の B 会場では、大辻 永 (茨城大学) は初等理科教育法における教員養成用ビデオを使った質的授業分析について、大貫麻美 (千葉大学) は構成主義の立場に立った教員養成に関する研究について、和田一郎 (東海大学教育開発研究所) らは東海大学における現職理科教員を対象とした研修プログラムの開発と実践について、標 輝人 (山梨県立韮崎高等学校) はウマオイ属・近縁種の生態分布の変遷をふまえた理科教師に要請される情報収集能力について、発表を行った。セッション 2 の A 会場では、田中保樹 (横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校) は中学校理科におけるカリキュラムマネジメントを通して「読解力」を身に付ける実践について、井上陽子 (神奈川県立西湘高等学校) は教員養成系に所属する大学生・院生との連携した高校生の新しい体験的な学習の実践について、佐藤結美 (筑波大学大学院) は女子の理科学習促進のための教師教育の介入プログラムについて、三浦正弘 (広島市立大学大学院) らは、オンライン学習コミュニティにおける論理的思考力の形成過程について、発表を行った。セッション 2 の B 会場では、福井智紀 (麻布大学) らは理科教材としての漫画に関する基礎的考察について、萱島泰成 (慶應義塾大学) らは一貫校の連続性を活かす生物実習プログラムの提案について、長屋邦彦 (千葉大学) らは地学における地域教材の開発について、飯田和也 (千葉大学) らは城ヶ島の露頭観察における指導法について、大嶋竜午 (筑波大学大学院) はシンガポールにおける理科の内容構成の特質について、発表を行った。セッション 3 の A 会場では、平松絢子 (東京大学生産技術研究所) らは研究者と科学技術インタープリターの連携による出張授業モデル開発について、仲矢史雄 (お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター) らは科学コミュニケーション能力を養成するお茶大の取り組みについて、宮本康司 (お茶の水女子大学) らは新教育システム：デリバリー実験教室による理科離れの解決と教員の資質向上について、発表を行った。セッション 3 の B 会場では、坂本美紀 (兵庫教育大学) らは科学的思考としての原理・法則のメタ理解に関する事例的研究について、内ノ倉真吾 (筑波大学大学院) は高校生のアナロジー・メタファーによる科学的現象の説明とその視点について、佐々木剛 (東京海洋大学) は海

洋科学教育に関する日米比較研究について、鈴木宏昭（筑波大学大学院）らは日本の中学生における”Nature of Science”の理解に関する研究について、野島正幸（麻布大学附属淵野辺高等学校）は植物の組織培養の自然科学部における活動について、発表を行った。

各研究発表に引き続いて行われた総合討論では、教科教育法における講義に関する研究、現職理科教員を対象とした研修プログラム、子どもの学びに沿った学習支援のあり方、日々進歩する自然科学研究において教師自身が意欲的に学習する必要性やその際に有効な手法、学外の支援者をも含めた科学教育の人材養成に求められる資質等について、熱心な討論が行われた。これらの討論に基づき、研究主題となる『科学教育人材養成を多角的視点から問う』についての考えを深めることができた。本研究会の事前準備や当日の運営においてご支援を頂いた先生方、各セッションで座長をお引き受けくださった先生方に深く感謝申し上げます。

（文責：鎌倉女子大学 高垣マユミ）

平成18年度日本科学教育学会研究会『研究報告』誌購読費納入のお願い

研究会「研究報告」購読料の請求（払込取扱票同封）を行ったところです。下記の口座へお振込み頂きますようお願いいたします。購読料（年会費）4,000円です。平成18年度の会計年度は、平成18年7月1日～平成19年6月30日となります。なお、ご自分の振込み状況を知りたい方は、tkoba@juen.ac.jpへメールでお問合せください。

日本科学教育学会 研究会事務局

研究会事務局（全体・諸連絡）

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1 上越教育大学自然系教育講座 小林辰至

TEL&FAX: (025) 521-3434 e-mail: tkoba@juen.ac.jp

研究会事務局（編集・印刷）

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1 上越教育大学学習臨床講座 藤岡達也

TEL: (025) 521-3500 e-mail: fujioka@juen.ac.jp

○発表申込先：開催校担当者または研究会事務局（全体・諸連絡）

○原稿送付先：上越教育大学 藤岡達也 宛

○『研究報告』誌購読料（年会費4,000円）振込先：郵便局払込取扱票にて

加入者名 日本科学教育学会 口座番号 00170-6-85183

○研究会ホームページ：<http://www.soc.nii.ac.jp/jsse2/activity/session/index.htm>

研究会の改組について

研究会委員長 小林 辰至

平素から研究会の活動にご協力をいただきありがとうございます。

さて、第218回日本科学教育学会理事会において研究会を改組することを提案し、審議していただいた結果、改組について具体的に検討することを承認いただきました。その後、理事会において「研究会」及び「支部」「調査研究」の体制を合わせて検討を進めて参りましたが、おおむね下記の結論を得ましたのでご報告いたします。なお、改組する主な理由は、国立教育政策研究所移転にともなう学会事務局の分散化等にもなう経費節減と業務のスリム化の必要性によるものです。

- ① 「研究会」を学会本体に一本化させ、経理の簡素化をはかる。なお、従来の購読費納入は不要となる。
- ② 「研究会」「支部」「調査研究」の3会務を「研究会事業」と「地域活性化事業」の2事業に改組し、運営の効率化をはかる。
- ③ 研究会の部会制度を廃止し、「研究会事業」の中に企画委員会を設け、社会的ニーズに応じた研究が推進できるようにする。
- ④ 支部の会務は「地域活性化事業」に引き継ぎ、「研究会事業」と連携を保ち、地域活性化に努める。なお、企画委員会は、各支部長等も含めて構成するものとする。
- ⑤ 「科教研報」は電子化し、学会員は無料で閲覧できるようにする。「科教研報」の購読会員には、学会への入会を勧める。別刷りが必要な場合は、オンデマンド印刷で対応する。
- ⑥ 新体制は平成19年度から立ち上げる。

編集委員会だより

平成 19 年 3 月 17 日（土）11 時 00 分～14 時 00 分、平成 18 年度第 5 回編集委員会が（株）内田洋行新川ビル 9 階 A 会議室において開催されました。平成 18 年度第 4 回編集委員会議事録の確認と編集状況の報告が行われ、新規投稿論文の審査員、第 31 巻第 2 号の巻頭言と編集後記の執筆者を決定いたしました。皆様のご協力で、無事、第 31 巻第 1 号が発行され、現在、決定論文は 7 編（和文 6 篇、英文 1 篇）、新規投稿論文は 3 篇です。(1) 第 31 巻特集についての進行状況の報告と検討、(2) 事務局分散化に対応する諸規程の整備について、(3) その他について審議しました。

(1) 特集号『サイエンスコミュニケーション』については、小川義和部会長から招待論文候補者、部会メンバー、編集体制の提案があり、編集委員会で出された意見をもとに、今後の決定は部会に任せることが承認されました。

(2) 事務局分散化に対応する諸規程の整備については、査読規程（案）の修正検討が行われました。今回の修正は、編集体制の見直しになりますので今後も慎重に審議を続けることとなりました。また、これらの変更に伴い Web システムの変更や手順等に関する変更が必要であり、その設計、予算要求等については吉川副編集委員長、杉本幹事、ならびに中山理事を中心に案づくりを進めていくことになりました。変更後の編集体制については編集委員全体に徹底し、公正、かつ迅速な審査が出来るようにするため年会で説明の機会を作ることとなりました。

(3) その他は、第 30 巻第 4 号（英文号）の印刷ミスについて、その経緯が報告され、扱いについて審議いたしました。第 31 巻第 2 号で「印刷不手際の経緯とお詫び」と印刷されなかった図、表を載せ、さらに英文号でも同じものを掲載することとなりました。

以上

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況（2007 年 3 月 17 日現在）

年 月	新規投稿論文数		掲載決定論文数（掲載号）		掲載拒否（辞退） 論文数
	和 文	英 文	和 文	英 文	
2006 年 2 月	3	1	1 (30-1)		1 (1)
3 月	3		1 (30-1)	1 (30-4)	1 (2)
4 月	3			1 (30-4)	3
5 月	6	1	2 (30-2)		
6 月	8	1	2 (30-2)		2 (1)
7 月	4		1 (30-2)		2 (1)
8 月	7	1	1 (30-2)		
9 月	4		2 (30-2)		2
			4 (30-3)		
10 月	3		3 (30-3)	2 (30-4)	4 (1)
11 月	2	3	2 (30-5)		2 (2)
12 月	7	2	4 (30-5)	1 (30-4)	1
2007 年 1 月	2	1	1 (30-5)		(1)
			1 (31-1)*		
2 月	1		4 (31-2)		2 (1)
3 月	2		2 (31-2)	1 (31-3)	1

* 表内の (31-1) には、ポジション・ペーパー企画および招待論文を数えていません。

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 181 号を、お送りいたします。お気づきの点などございましたら、下記メールアドレスまでお知らせください。また、「会員の声」欄への投稿もお待ちしております。

担当理事：磯崎哲夫（広島大） 東原義訓（信州大）
 委 員：加藤久恵（兵庫教育大） 久保田英慈（愛知産業大三河中） 清水欽也（広島大）
 杉本雅則（東京大） 二宮裕之（埼玉大） 平野俊英（島根大）
 森山 潤（兵庫教育大） 山口悦司（宮崎大）
 幹 事：竹中真希子（大分大）

科学教育研究レター編集・印刷

日本科学教育学会広報委員会 e-mail: jsse-pr@itl.k.u-tokyo.ac.jp